

令和8年度 第2回 富塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年9月18日（金） 14時00分から15時00分まで
- 2 開催場所 富塚中学校 2階会議室
- 3 出席委員 金原 圭吾、田口 美貴子、池谷 定康、久保田 智彦、山本 由佳、池谷 忠彦、松本 剛、坂口 歩
- 4 欠席委員 平出 謙介
- 5 オブザーバー 関 イチロー（市議会議員）
- 6 学 校 松原 通恭（校長）、青島 真紀（教頭）、岩岡 正紘（教務主任）、伊澤 孝浩（生徒指導主事）、藤原 啓子（CS担当）、岩邊 三幸（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録制作者 CSディレクター 岩邊 三幸
- 9 議長の選出

坂口委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

テーマ：「生徒の学びと成長を支えるために～学校・家庭・地域ができること～」

（1）特色ある学校づくりについて【グループ協議】

- 授業参観で感じた生徒の良さ、学びの様子
- さらに伸ばしたいところとそのために必要な支援

（2）協議会目標に向けた支援の在り方について

- ①地域との連携
- ②情報発信の在り方

（3）学校評価アンケート項目について

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）特色ある学校づくりについて

議長の指示により、授業参観を踏まえ、富中生の良さや学びの様子、さらに伸ばしたいところとのために学校・家庭・地域ができる支援について、A・Bの2グループに分かれて協議した。協議後、各グループから以下のとおり発表があった。

【Aグループ：金原会長、池谷忠彦委員、山本委員、生徒指導主事、教務主任】

○富中生の良さ

- ・ 朗らかで元気があり、校内では生徒から進んで挨拶をする姿が見られるなど、地域の方との距離が近い。
- ・ 授業では、意見を出しにくい生徒に対して周囲が気遣う様子が見られ、相手を思いやる優しさがある。

○さらに伸ばしたいところ・課題

- ・ 与えられたことに取り組むだけでなく、自分で考え、アイデアを持って行動する力をさらに育てていくことが必要である。
- ・ 物事の表面的な部分だけでなく、その意味や背景まで深く考え、自分の思いを持って取り組む経験が大切である。
- ・ 何かに本気で取り組む経験や、人とのつながり、時には意見をぶつけ合う経験を通して、今できていることから一歩先へ踏み出してほしい。

【Bグループ：松本委員、池谷定康委員、久保田委員、田口委員、坂口委員、CS担当】

○富中生の良さ

- ・ 授業や活動の運営がスムーズで、子ども主体で取り組む姿が見られる。
- ・ 学年が上がるにつれ、実行委員やリーダー等が中心となり、生徒自身が活動を企画・進行する力が育っている。
- ・ 学級としてのまとまりがあり、行事に向けて生徒同士で声を掛け合い、前向きに取り組む姿が見られる。

○さらに伸ばしたいところ・課題

- ・ 9月から「はまクル」が本格始動し、部活動の地域展開への移行が進む中、休日に学校で活動する機会が減り、子ども達が近隣の店舗等で集まって過ごす姿が見られる。
- ・ 人とのつながりを「生きる力」につなげるため、未来授業や職場体験、地域でのボランティア活動などを通して、学校・地域が意識して交流の機会をつくっていくことが大切である。
- ・ 生徒が地域の大人に見守られていると感じられるような、居場所や人とのつながりを支える場のあり方について、今後も協議していく必要がある。

(2) 協議会取組目標に向けた支援の在り方について

① 地域との連携について

議長の指示により、教頭から、資料1に基づき、今年度の学校運営協議会の取組目標について説明があり、委員からは以下のような意見があった。

- ・ 協働センターでは、QRコードを活用した参加申込など、都合のよい時に無理なく参加できるボランティア活動の仕組みを取り入れている。部活動の地域展開が進む中、学校や部活動とは異なる地域との関わりとして、生徒が気軽に参加できる地域活動の機会が増えるといい。(CS担当)
- ・ 学校が把握している近隣店舗等での生徒の様子などを、校内にとどめず地域とも共有していくことが必要である。協議会の取組内容の周知という点からも、地域団体やPTA、学校運営協議会等が情報を共有できる場を設けることも一つの方法ではないか。(久保田委員)
- ・ 保護者や教職員だけでなく、地域の大人にも見守られていることを、生徒自身が認識できるようにすることが大切である。(坂口委員)
- ・ 地域活動に積極的に関わる人がいる一方、地域活動への関心が薄い層も多いのではないか。これまで関わりが少なかった地域の方に、学校運営協議会や地域の活動をどのように周知していくかが課題である。(松本委員)
- ・ 生徒会等も参加し、地域の各団体と協働しながら、子どもの意見を地域づくりにつなげる場や仕組みがあるとよい。(金原会長)

② 情報発信について

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき、校内掲示資料を活用したコミュニティ・スクールの情報発信について説明があり、委員からは以下のような意見があった。

- ・ 地域ではボランティア活動に取り組む生徒の姿は見られるが、学校と直接関わりのない世帯には、校内での学びや取組までは十分に伝わっていない。ＴＳ発表会などでの学びの成果を、協働センターまつり等、地域の誰も見ることのできる場で発表する機会があるとよい。（池谷忠彦委員）
- ・ 地域の方に学校へ来てもらうだけでなく、生徒自身が地域へ出向き、地域の催し等で学校の学びや活動を紹介することも、情報発信の一つの方法として考えられる。（坂口委員）

（３） 学校評価アンケート項目について

議長の指示により、教務主任から、別紙資料に基づき、学校評価アンケート項目について説明があった。経年比較の観点から大幅な変更は行わず、原案のとおり実施することです承された。

12 報 告

学校支援コーディネーターから、学校支援活動について以下のような報告があった。

- ・ 職場体験について、生徒の希望アンケートをもとに、新規開拓も含めて受入先との調整を行った。できるだけ生徒の希望に沿った体験ができるよう、必要に応じて２日間で異なる事業所を組み合わせるなどの工夫を行い、夏休み前までに調整を終えた。
- ・ 外部講師による書写の授業について、早い段階から日程調整を行い、今年度の予定を決定した。また、今後も継続して実施できるよう、これまで学校支援コーディネーターを介して行っていた連絡について、学校から直接講師へ連絡できる体制を整えた。
- ・ ９月３日（木）に行われた学校支援コーディネーター研修会に参加し、他校の取組を知るとともに、本校が学校支援コーディネーターや学校運営協議会が積極的に学校と地域をつないでいることを改めて確認した。今後も学校の要望を聞きながら、生徒の活動を支援していきたい。

その他連絡事項

司会より、次回会議は、令和８年１１月１９日（木）１４時３０分からＴＳ発表会を参観後、１５時より２階会議室で開催する旨の連絡があった。

以上をもって閉会した。